

2 眼科専門分野の訓練指導

視能訓練士は、両眼視機能の異常をもつ斜視、弱視の患者様に両眼視機能を回復させるための矯正訓練及びこれに必要な検査を行います。

- 散瞳薬を用いた精密屈折検査
- 斜視、弱視治療計画及び訓練指導
- 両眼視機能検査
- 網膜対応検査

3 集団検診視機能スクリーニング

現在では、病院内の眼科検査のみならず、さらに積極的な早期発見と早期治療及び予防医学の観点から、視能訓練士は、職場検診、乳幼児検診など、各種検診による視機能スクリーニング（ふるいわけ）を実施しています。



機械で遠視、近視、乱視等を検査します

3 家庭でできる 目の健康チェック

大人用

両目だけでなく、片目ずつチェックしましょう！
（普段眼鏡をかけている方は、かけたままチェックしてください。）

両目で生活していると、片目の異常は気が付きません。

① あいている時間に、同じ距離で同じものを見てみましょう！
（例：2.5mの距離でカレンダーを見る、など）

② 右目、左目で、見え方に差はありませんか？（大きさ、色の違い、など）

③ ぼやけてみえにくいことはないですか？

④ 暗くなってみえにくい部分はありますか？

⑤ 真っ直ぐの線が、ゆがんで見えませんか？

どうでしたか？

目の障害は、早期発見・早期治療が何よりも大切です。

「おかしいな」「何か変だな」と思ったら、できるだけ早く眼科受診してください。

4 家庭でできる 目の健康チェック

子ども用

① テレビをみるとき、前へ前へ寄っていき、極端にテレビに近づいて見ることはありませんか？

② テレビや物を見るとき、目を細めてみますか？

③ 絵本をみたり童話を読むのが嫌いですか？ 読んでも根気がなくあきやすいですか？

④ 左右片方ずつテレビを見せると、どちらかの目がみえないと言いますか？

⑤ 薄暗い室内から戸外の明るいところへでると、まぶしそうに目を細め片目を強くつぶることはありますか？

⑥ 目の位置が真っ直ぐではないと感じることはありますか？（斜視）

⑦ テレビや物を見るとき、あごを上げたり下げたり、顔を傾けたりすることがありますか？



乳幼児時期は、健やかな目の成長にとって、とても重要です。

明暗を感じるだけで、まわりの物がぼんやりとしかみえない生まれたばかりの赤ちゃんも、正常な目であれば、日がたつにつれどんどん発達して、6歳くらいまでに大人とほぼ同じ視力まで成長します。

しかし、視力が発達していなくても、子ども自身や周囲の者が気付かず見過ごされることがよくあり、大きくなってから治療しても十分な視力が得られない場合があります。

3歳くらいの時期が目の成長のピークとなるため、この時期の早期発見、早期治療が重要となります。そのため、3歳児健診での眼科健診は、とても大切です。健診前に行う『家庭での視力検査』ができなくても、半年後ぐらいにもう一度チャレンジするなどしてみてください。

お子様の目の様子が少しおかしいなど思われたら、できるだけ早く受診してください。



眼位検査の様子